

## 第 13 回 ITS 世界会議

13<sup>th</sup> World Congress on Intelligent Transport Systems, London in United Kingdom, 2006

及川 潤\* 中嶋 康博\* 牧村 和彦\*

By Jun OIKAWA, Yasuhiro NAKAJIMA and Kazuhiko MAKIMURA

### 1 . はじめに

ITS 世界会議 (World Congress on Intelligent Transport Systems) は、欧州地域、アジア太平洋地域、北米地域の持ち回りで毎年開催されている。今回は 13 回目であり、2006 年 10 月 8 日～12 日にイギリスのロンドンにて開催された。本稿ではその模様を報告する。

### 2 . 第 13 回 ITS 世界会議の概要

会場は、ロンドン東部の再開発地区ドックランズにある国際展示場、エクセル・ロンドン (ExCeL London) であり、75 カ国から約 8,000 人が参加した。

#### (1) 展示発表

展示発表には 270 の団体・企業 (うち日本から 18 の団体・企業) が参加した。

その内容は、各国の行政機関による自国の ITS に対する取り組みの他、自動車メーカー、電機・通信機器メーカー等が自社の ITS 関連技術・製品の紹介を行っていた (写真 - 1)。

特に地元であるロンドン交通局 (TfL : Transport for London) は広大なスペースを確保しており、GPS 車載器を用いた走行距離課金の実験、DSRC を用いたゾーン課金の実験等の様々な施策の紹介や車載機器類の展示を行っていた (写真 - 2)。



写真 - 1 展示会場の全景

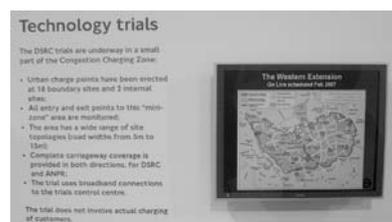


写真 - 2 TfL による DSRC の課金試験紹介

#### (2) セッション

論文発表・討論は、会場内にて 238 のセッションが開催され、各国の行政機関、自動車メーカー、電機メーカー等から ITS 関連の最新情報が紹介され、いずれも活発な議論が交わされた (写真 - 3)。

著者らが聴講したセッションでは、ドイツ航空宇宙局 (DLR) が発表した携帯電話が接続する基地局の変遷から車両の速度を推測するプローブカーシステム、ヨーロッパ全域レベルで道路交通情報インフラの構築を目指す EuroRoadS プロジェクト等があり、いずれも我が国の ITS 施策にとって大いに参考となるものであった。



写真 - 3 セッションの様子

### 3 . おわりに

2007 年の第 14 回 ITS 世界会議は中国の北京で開催される。中国の近年の経済成長はめざましく、ITS についても熱心に取り組んでいると聞いている。来年の世界会議はどのようなイベントとなるのか、今から大変楽しみである。

\* 交通研究室